
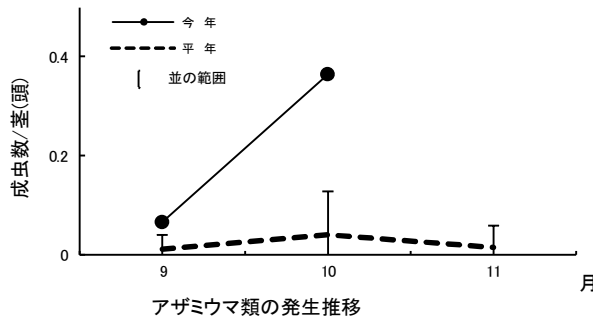


作物	小ギク(年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	① アザミウマ類		
10月の発生量(現況)	多		
11月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、発生量は10月と同程度と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)


- ・ 10月下旬の調査の結果、茎当たり成虫数は0.4頭(前年0頭、平年0.1頭未満)と平年より多かった。
- ・ 発生種は、クロゲハナアザミウマおよびミナミキイロアザミウマであった。

(今年のデータ)



防除のポイント

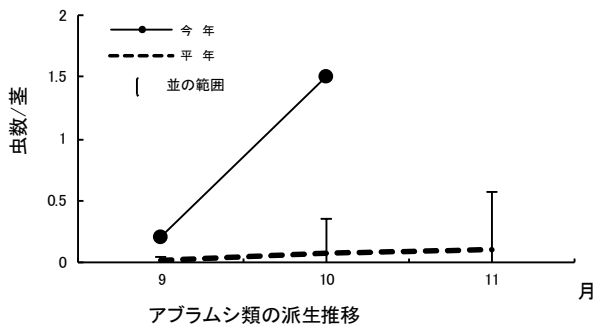
- ・ 苗の段階から葉にアザミウマがついていることが多いので、苗床での防除を徹底する。
- ・ 定植時に粒剤を施用する。
- ・ 採穂後の親株ほ場はアザミウマの発生源となるため、薬剤散布後、すみやかに片付ける。
- ・ 成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・ 同一ほ場内にあるキクは、異なる品種、異なる生長段階であっても、同時に防除を行う。
- ・ 地際部から新しく出てきた脇芽は、アザミウマが増殖しやすいので、早めに除去する。

作物	小ギク(年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	② アブラムシ類		
10月の発生量(現況)	多		
11月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、発生量は10月と同程度と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)


- ・ 10月下旬の調査の結果、茎当たり虫数は1.5頭(前年0頭、平年0.1頭)と平年より多かった。
- ・ 発生種は、ワタアブラムシであった。

(今年のデータ)



防除のポイント

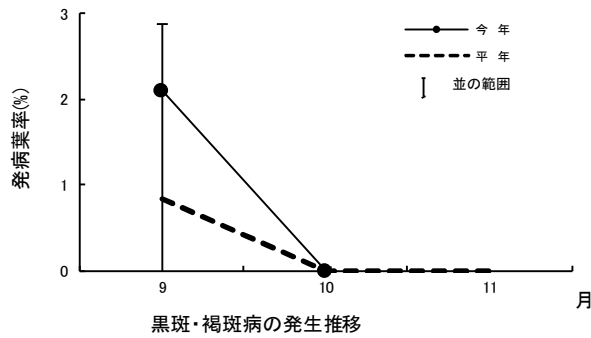
- ・ ほ場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源になるので除草を行う。
- ・ シルバーポリテープを畦上に張り出すか吊したり等して有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・ 増殖が早いので、新葉や上位葉に多いことに留意し、早期発見・早期防除に努める。

作物	小ギク(年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	黒斑病・褐斑病		
10月の発生量(現況)	並		
11月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)


- ・ 10月下旬の調査の結果、発病葉率は0.1%未満(前年0%、平年0.1%未満)と平年並であった。

(今年のデータ)



防除のポイント

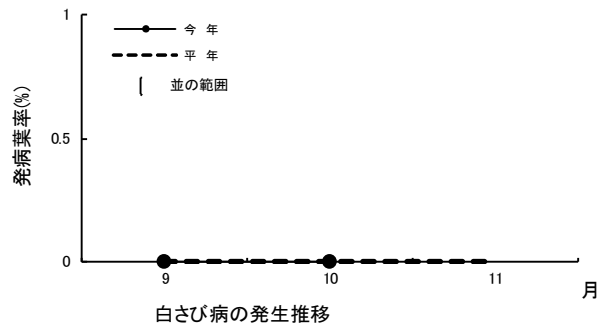
- ・ 発病葉や摘葉等による残渣は発生源となるため、ビニール袋などに入れるなどして早めにほ場外に持ち出し処分する。
- ・ 除草などにより、ほ場の通風をよくする。
- ・ 水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草を行う。

作物	小ギク(年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	白さび病		
10月の発生量(現況)	(発生なし)並		
11月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)


- ・ 10月下旬の調査の結果、発病葉率は0%(前年0%、平年0%)と平年並であった。

(今年のデータ)



防除のポイント

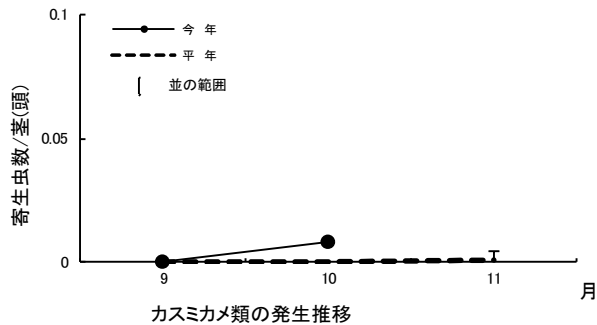
- ・ 多湿条件下で発生するので、不要な下葉、脇芽は除去し、通風をよくする。
- ・ 発病葉は除去し、ビニール袋に入れるなどしてほ場外に持ち出し、焼却などの処分を行う。
- ・ 発生時期には予防散布を行うとともに、葉をよく観察し初期発生を見逃さない。
- ・ 防除効果を高めるため、薬剤耐性菌が発現しないようローテーション散布を行う。
- ・ 栽培終了後は近隣ほ場や次作の発生源にならないよう、不要な株は速やかに処分する。

作物	小ギク(年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	カスミカメ類		
10月の発生量(現況)	多		
11月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	寄生虫数の平年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)


- ・ 10月下旬の調査の結果、茎当たり寄生虫数は0.1頭未満(前年0頭、平年0頭)と平年より多かった。

(今年のデータ)



防除のポイント

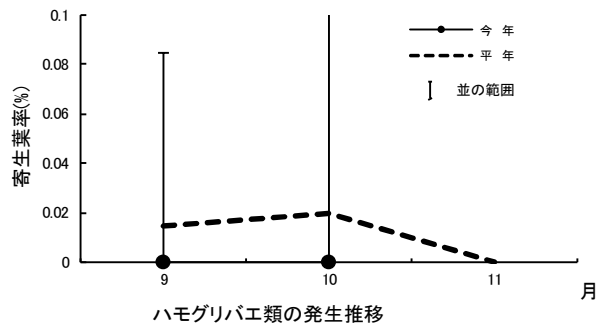
- ・ ウスモンミドリカスミカメなどの発生が知られる。
- ・ 成虫は夜間、電照用白熱球に誘引される。
- ・ 親株等の開花したキクは発生源になるので、開花させずに早めに耕起を行う。
- ・ 薬剤による感受性は高いが、次々と飛来するため、防除効果は上がりにくい。

作物	小ギク(年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	ハモグリバエ類		
10月の発生量(現況)	(発生なし)並		
11月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	寄生葉率の平年の発生推移から、10月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)


- ・ 10月下旬の調査の結果、寄生葉率は0%(前年0%、平年0.1%未満)と平年並であった。

(今年のデータ)



防除のポイント

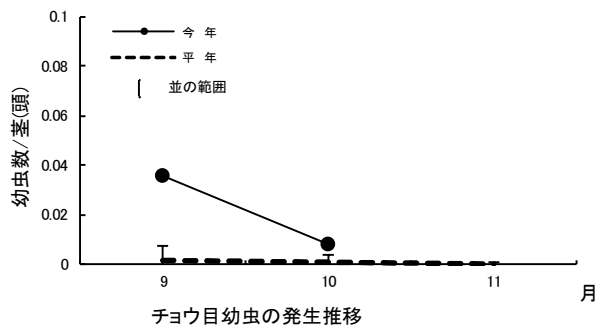
- ・ ほ場内外のウリ科・ナス科・マメ科などの雑草は発生源になることから、除去する。
- ・ 幼虫期間が比較的短いため、葉の表面に産卵痕や食害痕がみられたら防除を開始する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 農薬やその他の防除資材の効果の判定は幼虫の体色で判定する。
- ・ 生存時の幼虫の体色は黄色で、死亡すると黒変する。

作物	小ギク(年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	チョウ目幼虫		
10月の発生量(現況)	多		
11月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	今後1カ月の気温が高い見通しから、10月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)


- ・ 10月下旬の調査の結果、1茎当たり幼虫数は0.1頭未満(前年0頭、平年0頭)と平年より多かった。
- ・ 発生種は、シロイチモジヨトウであった。

(今年のデータ)



防除のポイント

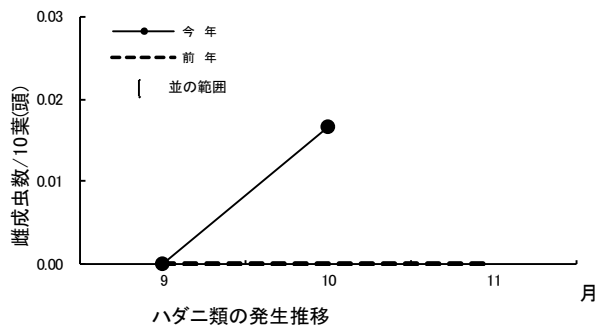
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 老齢幼虫では薬剤効果が低下するので、若齢幼虫期のかすり状被害を確認したら速やかに防除を行う。

作物	小ギク(年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	ハダニ類		
10月の発生量(現況)	判定不可		
11月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	今後1カ月の降水量が多い見通しから、10月より発生量は減少すると考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

- ・ 10月下旬の調査の結果、葉当たり雌成虫数は0.1頭未満(前年0頭)であった。
- ・ 発生種は、ナミハダニ(黄緑型)であった。

(今年のデータ)



防除のポイント

- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。